

こども園における自己評価

八尾市立東山本わかばこども園

4: 十分達成している 3: ほぼ達成している 2: 検討を要する 1: 改善を要する

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・ 目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	令和3・4年度の研究成果を基に、園目標や新たな研究テーマに向けて、同僚性を発揮しながら、一人ひとりの子どもの良さを生かし、発達に応じた環境を整え、乳幼児期にふさわしい園生活の実現をめざしてきた。
	・ 目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・ 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・ 目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・ 指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	教育保育計画に基づき月案・週案を立てて日々の保育実践を行っている。保育実践は毎日ダイアリーにエピソードと共に記し、評価改善を図っている。 子どもの姿を肯定的に捉え、発達や興味関心に沿った環境を整え、子どもが主体的に環境とかかわりながら遊ぶ時間を大切にしている。 子どもの気づきや発想を大切にし、やってみたいと思ったことが実現できるように、環境を整えたり一緒に考えたり、見守ったりしながら、一人ひとりが充実した毎日の中で自己実現できるように援助している。 園周辺の自然環境を保育実践に積極的に取り入れた保育を行っている。月に1回実施している保育教諭を対象とした学習会では、学年毎に季節ならではの遊びについて考えるなどして、保育の充実を図っている。
	・ 毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・ 月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	
	・ 1日の流れ（ディリープログラム等）は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	
	・ 行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・ 自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	
	・ 子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・ 子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・ 同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	
	・ 素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・ 保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
	・ 子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4	

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	栽培活動、玉ねぎの皮むきなどの給食の手伝い、クッキング保育、食育指導、保健指導など、様々な活動を通して、食や自分の体に興味をもつ取り組みを実践している。 月に1回避難訓練を実施している。1月の地震発生時には、家庭で子どもが机の下に身をかくす行動を取っていたと保護者から報告があるなど、訓練で積み重ねてきたことが身についていると感じる。
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員 の 資 質 向 上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	4	令和3・4年度の研究成果を基盤とし、新たな研究テーマを『わくわく楽しいこども園～夢中になる遊び環境をめざして～』として、子どもが豊かな経験や学びを得るために、「環境」について探求した。 今年度は、環境の中でも特に「物」と「自然」にスポットをあて、園内研・事例研・学習会等の場で学びを深めながら、保育に取り組んできた。
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	3	
職員 運 営 管 理 ・ 職 間 に つ い て	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	園長・副園長・主幹保育教諭・保育教諭・看護師・栄養士・調理員等が連携し、園運営にあたっている。 報告・連絡・相談を大切にし、ICT機器なども活用しながら、情報共有を図っている。
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか	4	
守 秘 義 務 の 遵 守	・乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか	4	年度初めには、守秘義務・個人情報の適正管理について周知し、閲覧は職員室で行うなど、管理の徹底に努めている。
	・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目		内容	評価	備考欄
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	地域の自然を活用した保育実践や、他の就学前施設や小中学校との交流・施設活用などを行った。 毎年、藍を栽培して藍染めを行っているが、今年は、NPO法人河内木綿藍染保存会の方にご協力いただき、5歳児が藍染めを体験した。2学期の自由参観に実施したことで、保護者にも藍染めを知ってもらうことができた。
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	4	
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互惠性のある交流になるように工夫しているか。	4	
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	3	
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4	
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	3	
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4	
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	毎月「わかばひろば」を開催し、地域の未就園児に遊びの場を提供している。水遊びや体を動かす遊びなどが好評である。また、今年度から年齢交流を再開し、在園児と一緒にクラスで遊んだりふれあい遊びをしたりした。同じ年齢の子どもの様子を知ることができて、利用者からは大変好評であった。園庭開放も月に2回実施している。
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4	
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4	
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4	
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	4	今年度より、各学年の生活の様子を順番に週一回のペースでホームページに掲載している。また、子どもが出会った自然についても写真掲載している。
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実に役立てているか	4	
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	4	第三者委員さんに来園していただく機会を設けている。参観後は保護者にアンケートをお願いし、意見を運営改善に生かすようにしている。
		・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	4	
施設・設備		・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4	安全点検を定期的の実施し、ヒヤリハット事例の収集なども行いながら、園児が安全に生活できる環境を整えている。 掲示板は保護者との連絡ツールとしても欠かせないものであるため、日々活用している。
		・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4	
		・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4	
		・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	4	

経理出納	・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4	適切に処理している。
------	----------------------	---	------------

成果

子どもが豊かな経験や学びを得るためには、環境構成が大切であり、保育の質の向上には、保育者の環境を構成する力の向上が欠かせないため、今年度は環境構成に視点をあてて保育の質の向上をめざし、研究テーマを「わくわく楽しいこども園 ～夢中になる遊び環境をめざして～」として取り組んできた。今年度は、特に、環境の中でも「物(手作り玩具・既成の玩具・素材など)」と「自然(季節・自然物)」について、園内研・事例研・学習会等を通して学び、実践に生かしてきた。

研究の中では、「物」や「自然」に教育的価値をもたせるには、保育者が子ども理解に基づいて保育のねらいを設定し、そのねらいを達成するために、どのように環境を構成するかを考えなくてはならないことが分った。「物」は、子どもの姿に応じて具体物から可塑性のある物(玩具)に変化させていくことで教育的価値が広がり、「自然」は、感性を豊かにし、科学的思考につながる学びの土台を育むことが分かった。また、保育者が子どもの実態や興味・関心、「このような力を身につけてほしい」というねらいに沿って環境を構成したり、園周辺の自然の豊かさや魅力に気づき子どもが自然に出会うことができるような場を設けたりしたことで、子どもたちが主体的に環境にかかわり、心を動かされたり不思議さを感じたり、思考を働かせて探求したりなが遊びを展開し、様々な学びを得ることができた。

コロナによる制限が解除されたため、2学期・3学期の自由参観では、午前中から給食までの生活や遊びを保護者に見ていただけるようにした。普段の子どもの様子を知ることができたと好評で、子どもの姿を保護者と共有できるよい機会となった。また、敬老の日のつどいや運動会、生活発表会なども人数に制限を設けずに実施でき、祖父母の参加もあり、子ども達もたくさんの方に温かく関わっていただく機会になった。

自然を積極的に取り入れて保育をすることで、保育者一人ひとりが地域へ目を向けるようになった。植物や昆虫についての知識が身につくだけでなく、地域の歴史や八尾の伝統についても興味をもつ機会が増えた。学習会の1コマで、東山本町づくり協議会会長に講師を依頼して、「八尾郷土かるた」を用いた地域学習を行った。八尾で働く保育者が八尾について深く知ることが、八尾を好きな子どもを育てることにつながると感じている。

課題

今年度、ホームページを用いた発信を増やしたが、まだまだ園の取り組みを積極的に発信する必要があると感じている。また、保護者に向けても、楽しく遊んでいる子どもの姿は発信できているものの、子ども達にどのような力がついているかは、伝えきれていないといった課題も感じている。発信の仕方を工夫していきたい。

保育者一人ひとりが積極的に研修等に参加して学んでいるが、特に園外での研修で学んだことを園内で共有することができにくい。時間をとって報告することが難しいので、ICT等を活用して共有できないか考えていく必要があると感じている。

改善策

研究は保育の質の向上には欠かせないものであるということを保育者間で共通認識し、これまでの研究で学んだ成果を保育に生かすとともに、次年度は環境「人」「空間」「時間」などについても、学びを深めていきたい。

今年度実施してきたホームページでの発信は継続しながら、玄関ホールのモニター等を活用して子どもの学びを発信する方法を考えていきたい。また、各クラスでポートフォリオを作成しクラスへ掲示し啓発を図っているが、保護者は他のクラスや学年のポートフォリオをじっくり見る機会がないので、2学期の自由参観等の機会にホール等に掲示して閲覧できるようにし、子どもの発達や学びがどのようにつながっていくのか知らせていきたい。

研修内容の共有も、ICTを活用して、保育者間で共有できる仕組みを整えたい。